

あ と が き

本号の巻頭言に伏見先生から「論文の評価以前のこと」と題する貴重な文を頂戴しました。御多忙にもかかわらず早々と原稿をお寄せいただきまして厚くお礼を申し上げます。

前号で本誌の発行の遅れをお詫びしたばかりであり、本号ではその遅れを取り戻すつもりでいたところ、更に遅れる結果になってしまいました。本ニュースの発行は本来年4回であるところ、本年度は2回になってしまったわけで甚だ心苦しい次第です。発行回数が減った分は各号の頁数がかかなり増えたことで多少は補われているとは思いますが、ニュース誌は定期的に発行するのが使命でもあるので来年度からはこのような失態にならぬよう大いに努力するつもりです。そのためにも、と言うと「付け」を廻すようで恐縮ですが、核データについての情報や御意見をお持ちの方、国際会議等に出席された方から長短にかかわらず原稿をお寄せいただきたいものと思っております。

本号の塚田氏の報告文「NEA核データ委員会第19回会合」中に、断面積単位 barn の廃止についての動向が紹介されています。核データにたずさわるわれわれにとって最も付き合いの深く、またお世話(?)になった単位だけに、今後の不便と混乱とが案ぜられるとともに一抹の寂しさを感じます。「尺、貫」法の運命と同次元で議論はできないと思うものの、日頃、冷淡であった「尺、貫」法廃止の是非をめぐる議論も改めて見直す心境になった次第です。聞くところによると、barn 廃止の流れは強く、反対勢はもはや土俵際にあり寄せられるのも時間の問題の観があるとのことですが、数値データに付きまとう単位の問題を再考してみる意味からも、この barn 廃止の議論に目を向けることも意義があるのではないのでしょうか。核データに関与しておられる方々の間で barn 廃止についてさまざまな御意見がおりかと思いますが、是非とも本誌上で披露していただきたいものです。

お気付きの方も多いかと思いますが、本誌の表紙のすそに印刷してある発行機関の名称を正確にすることから本号から改めました。実は、前号にうっかり「シグマ委員会」なる通称を用いたところ、2、3の方から御注意をいただきました。「シグマ委員会」なる呼称はよく親まれたた従来からも用いられてきたものですが、2つの委員会を総称した通称であって正確な名称ではありません。最近では本誌も公の定期刊行物としての扱いを受けている向きもありますので、責任の所在を明確にする意味からも正式の表現に訂正した次第です。(浅見)

編集者 更田 豊治郎
浅見 哲夫
大竹 幸江